

## セネガルでのイスラーム共同調査

澤井 真

8月30日から9月10日まで、イスラームに関する共同調査のため、西アフリカのセネガルに滞在した。同調査は、東長靖氏（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・教授）の「イスラーム神秘主義の構造的理解—スーフィーズム・タリーカ・聖者信仰複合現象の解明」（科学研究費補助金・基盤研究（A））に関するフィールド調査で、セネガルに広がるスーフィー教団（タリーカ）の実態調査を行った。セネガルはアフリカ最西端に位置しており、人口の9割以上がムスリムであると言われている。フランスの植民地支配を受けていたことから、フランス語や現地語であるウォロフ語が話されている。

今回の共同調査の主要調査地は、首都ダカール、ティエス、そしてカオラックであった。また調査としては、モスクとそれに付設されている廟の調査、現地のスーフィー教団長たちとの接触、そしてウォロフ語、アラビア語、そしてフランス語などの文献収集であった。

首都ダカール市では、大統領からの援助を受けるかたちで建設されたというグランド・モスクや、夢のお告げにより建設されたというイラーヒーヤ・モスクなどを調査した。それらのモスクの敷地内には廟が併設されていたが、モスク内や廟への立ち入りは拒否された。その理由の一つとして、異教徒をモスク内部に立ち入らせることを認めない、マーリク法学派の影響が考えられる。

ティエス市のティヴァワンでは、複数のモスクを調査した。セネガル人口の1割を占めるティジャーニー教団のなかでも、マーリク・シーは当地で大きな影響力を保持した人物であった。彼の

墓はモスク中央に設置されており、礼拝の際には彼の墓へ向かって礼拝することになる構造が取られていた。さらに、セネガルにカーディリー教団を導入したブー・



廟の前で祈る人々（ダカール市ヨフ地区）。

クンタ廟を見学し、カーディリー教団長（カリフ・ジェネラル）邸を訪問した。

カオラック市では、当地を本拠地とするニヤース教団を調査した。ニヤース教団はティジャーニー教団から派生し、その創始者はイブラヒーム・ニヤースという人物である。彼の廟の内部には、イブラヒーム・ニヤースの墓地を取り囲むように、親族や関係者など12の墓が置かれており、男女を問わず廟の内部で祈る人が絶えなかった。

筆者が訪れた書店に並んでいたアラビア語書籍に関しては、セネガル国内で出版され、現地でしか手に入らない書籍が売られていた。一方で、モロッコ、エジプト、そしてレバノンなどからの輸入出版物も多い印象を受けた。西アフリカにおけるイスラーム神秘主義研究は、植民地主義からの影響とともに、思想の受容過程に注目することの必要性を痛感した。

## 『グローバル天理』年間購読のご案内

原則的に新年度は1月号からとなっております。購読料については、送料のみの実費負担です。申し込みは、封書、FAX、メールでお願い致します（お電話での申し込みはご遠慮下さい）。毎月の希望冊数と、氏名（フリガナも）、郵便番号、住所、電話、FAX、E-Mail、職業をお知らせ下さい。申し込み受付後に振込み用紙を送付致します。振込みを確認後、発送させていただきます。

なお、切手・現金でのお支払いはご遠慮くださいますようお願い致します。

送料（ヤマト運輸DM便）

全国一律167円（角2封筒、重さ1kg〔約20冊〕まで）

【例】毎月購読167円×12カ月＝2,004円

問い合わせ先：

〒632-8510 奈良県天理市杣之内町1050

天理大学 おやさと研究所「グローバル天理」編集部

FAX 0743-63-7255

E-Mail: oyaken@sta.tenri-u.ac.jp

天理大学おやさと研究所  
2019年度公開教学講座

## 信仰に生きる 『逸話篇』に学ぶ（5）

場所：天理教道友社6階ホール

時間：午前10時～11時30分

事前予約不要・来聴無料

第6回 11月25日（月）堀内みどり  
73話「大護摩」

グローバル天理

第20巻 第11号（通巻239号）

2019年（令和元年）11月1日発行

© Oyasato Institute for the Study of Religion  
Tenri University

発行者 永尾教昭

編集発行 天理大学 おやさと研究所

〒632-8510 奈良県天理市杣之内町1050

TEL 0743-63-9080

FAX 0743-63-7255

URL <https://www.tenri-u.ac.jp/oyaken/j-home.htm>

E-mail oyaken@sta.tenri-u.ac.jp

印刷 天理時報社

Printed in Japan